2023.04.06. 木曜礼拝

「ギャップ説とサタンの堕落」

Mac 牧師

共に祈りませんか？　主よ、一日中あなたの御名を賛美し、あなたがどなたであるかを喜ぶこと、主よ、それが礼拝です。何をするにしても、あなたのためにします。主よ、あなたが与えてくださったこの美しい場所に、私たちが集うことを許してくださったことに心から感謝します。主よ、この礼拝の時間に、あなたがただ私たちの心を整え、思いをクリアにし、受け取り、学ぶために私たちの心を開いてください。主よ、今夜、私たちに与えてくださるものは何でしょうか。主は私たちが時間を無駄にすることを意図しておられないからです。ですから、私たちの集中力を保ち、近くに引き寄せてください。今夜あなたが私たちのために用意して下さっているこの時間にもう一度感謝します。あなたが栄光を受けられますように。偉大なイエスの御名によって祈ります。アーメン。主を称えます。どうぞお座りください。こんばんは。J.D.牧師の代講です。ここカルバリーチャペルカネオへ、週半ばの聖書の学びにようこそ。普段は旧約聖書の一行一行、聖書を通して教えています。しかし、今夜は彼が不在のため、局所的な教えを行います。その前に、この前の火曜日に祈り会を行ったことを皆さんにお知らせしたいと思います。次回の祈り会は、5 月 2 日夜 7 時、ここ礼拝堂で行います。ご都合のつく方は皆さん来ていただき、信者の共同体として祈りましょう。私たちの祈りのリストだけでなく、ここ地元でも、多くの人が祈りを必要としています。私たち全員に祈りが必要です。祈り手は多いほど良いのです。J.D.牧師が言われたように、力強い人は祈る人です。ご都合のつく方はぜひいらしてください。今夜の学びを始める前に祈り、主の祝福を求めましょう。ご一緒にお願いします。

天のお父様、主よ、私たちがここに聖徒として一致して御言葉を聞くことができる、またとない機会を与えてくださったことを心から感謝します。主よ、私は壊れた器です。　あなたがいなければ、私から良いものは何も生まれません。ここで私たちと出会ってください。聖霊の力により私たちがこの教えから学び、ただあなたの御言葉を聞き、あなたが持っておられる力をより深く理解することができるように、この教えを祝福してください。私たちはあなたを愛し、感謝し、私たちが今晩共に過ごすこの時間、私たちが自由にあなたに捧げるこの時間にあなたが何をなさるのか楽しみにしています。偉大なイエシュア、イエス・キリスト　の御名によって祈ります。アーメン。そうなりますように。

今夜は「ギャップ説とサタンの堕落」というテーマで学びます。この学びには推測が含まれる側面もあるので、楽しみでもあります。分かりますか？　私たちの救いとは何の関係もありません。だから、ちょっと楽しみたいんです。だから、説と呼ばれるのです。聖書は、これらのテーマについて、他の多くのものと同様に、何ら決定的なことを明確に表現してはいません。ですから、態度には出さずとも、少しは余裕があります。もし態度に出れば、それはあなたの責任です。私にとっては、このような話題に触れることを主が許してくださる数少ない機会です。また、私は本当に楽しみながら、同時に、もちろん、真の生ける神の素晴らしいご栄光を示したいと思っています。今、これらの話題は多くの議論に満ちています。その多くは、間違った理由で議論されています。それらを過度に議論するつもりは全くありません。なぜなら、神の御言葉が彼らを沈黙させ、多くの議論をする必要が全くないと信じているからです。私はできる限り、神が御恵みにより、私の心に置かれたことを話し、神が実際に働きかけてくださることによって、私たち全員が祝福されることを願います。早速、私の見解の最たるものである本題に入り、正面からお話しします。このギャップ説に至っては、私はこの説を、特にその記述の仕方において信じていません。

しかし、私は、この聖書の最初の 5 つの節を見たり、議論したりすることで、特にルシファーの堕落を扱うときに、その間に起こる必要のないことが起こった可能性について、より良く理解することができるようになると信じています。
さて、私は、これらの人々が信じているギャップ説の中の同じ時間内に、ここで何か大きなことが起こったと信じています。しかし、このことに注目するとき、推測の域を超えずに、聖書と一致する別の方法を見出すことができます。ここまでついて来れていますか？　つまり、6 日間とは、6 日間という意味です。神を助けようとするギャップ説は全く必要ありませんでした。付いてこれていますか？
では、ギャップ説とは何か？　ほとんどそれ自体で定義しています。というのも、ギャップ説には、これが核心なのですが、いくつかの副産物があります。いわば、これが主な構成要素です。これは、創世記 1 章 1 節と創世記 1 章 2 節の間にある説であり、創世記 1 章 2 節以降に続く 6 日間の創造の説明の前に、数百万年から数十億年前の未知の時間があったと多くの人が信じています。それがギャップ説です。
これは、何か新しい説でもありません。しかし、現在では多くの支持を集めています。この説に関しては、さらに続きがあります。この説は、ある種のアダム以前の人種を語るものでもあると信じている人もいます。アダム以前の人類を意味します。ヘブライ系イスラエル人の主要なグループは、アダムより前に人間がいたと信じていました。ほとんどのギャップ説の支持者は、この時間のギャップ/隔たりは、恐竜が地球を歩き回っていた時代だと考えています。ルシファーが自分の御使いのチームを含め、このすべてを統括していたとも信じられています。そして、ルシファーが反逆し、堕落し、この地球は何百万年、何十億年もの間、廃墟と化していたと。つまり、私たちが知っている地球は、かつて神によって裁かれ、消滅させられたものの復元なのだと。一言で言えば、人間の科学と神の奇跡の創造を結びつけようとする説です。ある聖句を、その聖句の文脈を大きく超えて使っています。この説は、地獄がいつできたか、地球の年齢、化石の記録、そしてまた、ルシファーとその御使いたちが堕落したときなどを満たそうとするものです。有神的進化論の一種です。それが、これなんです。全ては科学の名の下に。
さて、天才科学者の皆さん、よく聞いてください。私の神は、科学の神です。神はあなたの科学に縛られることはありません。とても悲しいのは、神が明らかにした絶対的な神の科学が、天才と呼ばれる科学者たちの多くに拒絶されたことです。だから、あなたの生物学は神の生物学ではありません。だから、あなたの気候変動宗教であり、神の気候変動ではありません。人間は地球を滅ぼそうとしていますが、 神は地球を維持することを約束されました。創世記 8 章 22 節、神の御言葉にこう記されています。
ー創世記　8:22ー
この地が続くかぎり、種蒔きと刈り入れ、寒さと暑さ、夏と冬、昼と夜がやむことはない。」
これが神の御言葉です。ええ、たくさんの災害は起こります。それは起こるでしょう。いろいろとぶっ飛んだ出来事もあるでしょう。しかし、地球の滅亡は人間の手によってもたらされるものではありません。神は、御言葉に書かれているように、ご自分の時に、ご自分の方法で、そのことに対処されます。それを明らかにしないといけません。では、創世記 1 章 1 節を批判的に見てみましょう。そして、なぜ違う視点から見ることで、神の素晴らしさを知ることができ、このようなことが問題ではなく祝福になるのかという点に飛び込んでいきます。
では、ここです。創世記 1 章 1 節。聖書の中で、最も有名な箇所です。
ー創世記　1:1ー
はじめに、神が天と地を創造された。

ここで、「heaven/天」という単語が複数形であることに注目してください。これは神の関心の中心である地球を中心に、上、周り、下のすべてを説明するものです。ついて来ていますか？　そのすべては、神の語られたことばによって生み出されたものです。神のことばです。ギャップ説は、私たちが今から読む 2 節の前に、この未知の時間のギャップがあると言います。

ー創世記　1:2ー

地は茫漠として何もなく、闇が大水の面にあり、神の霊がその水の面を動いていた。

では、最初に問いたいのは、神は良くないものを創造されるだろうか、ということです。この説を信じる人たちは、このような疑問を持つはずなので、私はそう尋ねています。なぜなら、神は善の唯一の源であられるため、善でないものを創造することは不可能だからです。私たちの神は、善が秩序あるものであるように、あらゆる点において秩序があられます。また、1 節に、「初めに神が天と地と地獄を創造された」とは書かれていないことに注目してください。しかし、神がある時点で地獄を創造されたことは事実です。神は最初から地獄を創造されたわけではないと言ってよいでしょう。なぜなら、はじめに天にすでに罪があったのでなければ、地獄の必要性はなく、神は悪の当事者になってしまうからです。そこで今質問なのですが、地獄の創造が意味を持つために、このギャップ説が必要なのでしょうか？　私は全くそう思いません。悪が生まれたのは、罪のせいだということに同意していただけると信じています。それは最初からあったわけではなく、人間の堕落の前に起こったことです。しかし、その罪は、人間が創造される前に起こらなければならなかったのでしょうか？　考えてみてください。サタンとその御使いが罪を犯したときの堕落に関して、必要な破滅的な裁きがあるとは思えません。天の座から追放され、ある者は暗闇の中で鎖につながれ、永遠の滅亡が迫っていることは、十分な裁きと言えるでしょう。御使いの罪は、人間の罪のように被造物に影響を与える必要はありませんでした。なぜなら、私たちは神の姿に似せて創られた存在だからです。2 節に収められた神の御言葉も、天と地に関して最初に創造されたものは、神のご方法と御言葉の通り、すべてにおいて完璧であったと私は信じています。

ー創世記　1:2ー

地は茫漠として何もなく、闇が大水の面の上にあり、神の霊がその水の面を動いていた。

この時点では、地球は形がなく、空虚で暗いものです。その主張は、この形のない空虚で暗い状態では、善と思えるものはまったくないだろう、というものです。つまり、実際、神は光あれと言われるまで、何も良いものを呼び出しておられないと。しかし、ここに 2 節があります。それは、いくつかの理由から、現状のギャップ説を煽るものです。その中で最も指摘されているのは、「was」という単語を調べるとどうなるかということによるものです。ヘブライ語のこの単語には、「実現する、起こる、起きる、存在する、なる、持つ」という意味があることがわかります。ですから、この単語は「なる/become」となる可能性があり、その語源は「なった/became」と訳されました。実は、この言葉は、創世記 47 章 26 節、欽定訳語で表現されたものと全く同じ言葉です。御言葉をお読みします。

ー創世記　47:26ー　ヨセフは、エジプトの

土地について、…一つの掟を定めた。それは今日にまで及んでいる。ただし、祭司の土地だけはファラオのものと”ならなかった”（became）。

これが、「was」が「became」として使われた一例です。そして、創世記 1 章 2 節の七十人訳聖書ではこんな訳があります。

お読みします。

ー創世記　1:2ー（七十人訳：直訳）
”しかし”、地はみすぼらしく、何もなく、闇は深淵を覆い、神の霊が水の上を動いた。
何が起きているか分かりますか？　さて、ここ２節の始めには、「しかし」という言葉があります。それを全部まとめるとすれば、このように読むべきだという意見もあります。
「しかし、地は形もなく空虚と”なり”、闇が深淵を覆い、神の霊が水の上を動いていた。」
これが分かりますか？　これはその火を燃やすものです。しかも、表面上はもっともらしく、可能性があるように見えても、私は、聖書の文脈からして、これが正しいとは全く思いません。聖書は、ギャップ説の必要性をもたらすような出来事を必要とせず、創造がすべてを包含していることを明らかにしています。繰り返ますが、初めに神がそれを語られ、そうなりました。神は、私たちの益のために時間を創造されたお方です。実は、神が「光あれ」と言われたときが、私たちが知っている時間の始まりだったと言えるかもしれません。考えてみてください。この後、光と闇の分離が行われたからです。昼と夜が宣言され、夕と朝が最初の日となりました。これは、私たちが知っている時間に関する完璧な基準点であるように私には思えます。時間とは、とても素晴らしいものです。そこにはまさに時間の中に深い謎のひとつが潜んでいます。時間は誰にとっても大きな問題です。つまり、ある理由から、みんな使い切ってしまうんです。そうですね？　しかし、時間は、私たちの現実に与える影響について理解を深めるような形で、十分に表現されてはいません。ここでチャック・ミスラーを全面に出すつもりはありませんが、時間は物理的な特性であると同時に、次元の一つであることを認識する必要があります。だから今、私たちは少なくも４次元で生活しています。しかし、聖書はもっと多くの次元が存在することを明確に示しています。
アダムとエバはある程度これらを目撃していただろうと聖書は示しています。しかし、時間に関して言えば、霊の領域は、物理的な領域にいる私たちのように、時間に左右されることはありません。左右されません。物理的に、私たちは同時に同じ空間を占有することはできません。どうなるか試してみてください。フットボール場で見ます、ドーン！ 誰かが怪我しますよね？　しかし、霊には出来ます。可能です。質量がないからです。ついて来れていますか？　そして、科学的な観点から、質量と時空に関するある論文ではこのように語られます。お読みします。
「分子光合成の...」冗談ですよ。ー（笑）ー　皆さん、「この人は何をしてるんだ」と思っていますね。冗談です。冗談。いや、でも真剣に、ここに書いていて、引用して読みます。
「もし質量がなかったら、光速で移動するしかないでしょう。進行方向に沿った距離は、ゼロに引き寄せられます。瞬間的に横切るのです。同様に、時間は無限大に広がります。あなたの旅は、あなたの視点から、時間はゼロになります。」神は科学を超える存在です。私たちはそれを知っています。しかし、ここでは、エゼキエルが神の幻の中で目撃したこと、先週 1 章 14 節でお話しした生き物を扱うことについて、ある程度説明しています。お読みします。
ーエゼキエル　1:14ー
それらの生きものは、閃光のように出たり入ったりしていた。
天の軍勢は皆、仕える霊です。主に仕えるために造られました。私たちが見ているような時間の影響を受けることはないでしょう。しかし、彼らは時間を完全に認識しています。これは、ただ存在する時間基準の一形態であり、天のこちら側では測定不可能です。そこで、いくつかアドバイスです。挑戦するのはやめるべきです。繰り返しになりますが、神は時間に左右されることはありません。時間の創造者であり、私たちに時間を提供することで、本質的にすべてが一度に起こることを防いでおられます。まだつい

て来れていますか？　良かったです。あなたをチャック・ミスラーにしなかったですよね？　ああ、昔は彼の教えが大好きでした。おお、なんということでしょう。まだたくさん保存しています。本当に彼がいなくて寂しいです。
では、創世記 1 章 2 節をどのように扱いましょう？　なぜ主はこのように、形がなく、空虚で、闇に満ちた世界を創造されたのでしょうか。結局のところ、神は光であられ、神のうちに闇はありません。この 2 節で使われている闇という言葉は、ただ暗いというような闇ではありません。これは、文字を超えた闇です。この言葉を見ると、この「闇」という言葉は、重々しい闇であることがわかります。この闇は、ほとんど切ることができます。奈落の底に等しいです。この深い闇の様子は、神が光であられることを考えると、天の軍勢にとって奇妙なものであったに違いありません。いいですか？　ついて来て下さいね。なぜなら、この天地創造は、天の御使いの目から見た、完全な神の知恵からなされたものだからです。
御使いたちが何を見ているのかを考えてください。神は、実は、御使いたちに何かを示しておられたのかもしれません。それは教えるのに良い機会でした。神は、地球を創造した方法によって、御使いたちに教えておられました。神が創造された存在は、私たち全員が永遠に学ぶことになるとはいえ、すべて一定の理解力をもって創造されたことを忘れてはなりません。御使いたちはある程度の理解は得ていました。そして、彼らもまた、感情をもって造られました。そこで、この聖句がヨブ記 38 章 4 節から 7 節にどのように捉えられているかを考えてみましょう。御言葉をお読みします。
ーヨブ　38:4ー
わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。分かっているなら、告げてみよ。
ーヨブ　38:5ー
あなたは知っているはずだ。だれがその大きさを定め、だれがその上に測り縄を張ったかを。
ーヨブ　38:6ー
その台座は何の上にはめ込まれたのか。あるいは、その要の石はだれが据えたのか。
ーヨブ　38:7ー
明けの星々がともに喜び歌い、神の子たちがみな喜び叫んだときに。
さて、ここではっきりとわかるのは、イエスが地球を配置され、造られたということです。これはとても詩的ですが、非常に鋭いとも思います。まず、イエスは地球の基礎を築かれました。御使いたちは、神が語られ、これらのことを行われるとき、証人となりました。少し思考を広げてみましょう。それを測り、その場所に置きます。そしてもちろん、イエスが要の石です。聖霊の力によって。そして、明けの星々が一緒に歌っているのがわかります。明けの星々が御使いのことを指しているのは、神の御言葉からわかっています。このことは、一緒に歌うことができるという理解で、一緒にいたことを意味しているのでしょう。ここに音程が外れる人はいません。少なくとも賞賛に値するほどのことが起きていることを、彼らは知っていました。そして、7 節の終わりには、神の子たちが皆、喜びの声を上げたことがわかります。全員です。注目下さい。「叫ぶ」とは動詞です。「喜び」は名詞です。一つは外側の感情を表すもので、もう一つは内側の感情を表すものです。また、神の御使いのような存在も、私たちと同じように、こうした感情に満ちていることを証明するために、そのことを記しているのです。神が「光あれ」と言われた後に、喜びの声を上げたということもあり得るでしょう。神が光を良しとされたときに。
さて、それ以前にどの程度の知識を与えられていたかはわかりません。しかし、それは明らかに、神のなさったことが善であることを御使いたちに知らせるには十分過ぎるほどでした。「みな喜び叫んだ」とあ

りますね？　つまり、ルシファーと、彼とともに堕落するすべての者たちも。ルシファーという名前についても考えてみてください。ご存知の方も多いと思いますが、「光の担い手」という意味です。それはほとんど自己告発です。そうですね？　彼の名前は「光の担い手」という意味で、
光とは何か、光が表すものが善であることを明確に知っていることを意味します。もう一度、3 節で、神は仰せられた。「光、あれ。」そして 4 節の冒頭で、「それは良かった」と言われています。茫漠としておらず、深淵の面に闇はありません。つまり、天の軍勢は、その違いを知っていました。ついて来てます？　私にとって、それは 4 節の残りでさらに実証されます。主が善と呼んだ光を闇から分けて天の軍勢をすべてご自分のもとに置き、闇の中に置かれないと仰った時です。その違いがわかるはずです。教えるのに良い機会。それが私の見解です。可能です。この話を進める前に、少なくともある意味で、神はアダムに何が受け入れられるか、あるいは受け入れられないかを示すために、教えられる機会を与えられたと私は信じています。　神が言われたことを見てください。「それは人にとって良くない」
創世記 2 章 18 節から 20 節に書かれています。お読みします。
ー創世記　2:18ー
また、神である主は言われた。「人がひとりでいるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」
神の御言葉によって、何が良くないのか、分かりますか？「人がひとりでいること」考えてみてください。アダムをすぐに深い眠りにつかせ、アダムから女性を造るのではなく、神の御言葉は続きます。19 節。
ー創世記　2:19ー
神である主は、その土地の土で、あらゆる野の獣とあらゆる空の鳥を形造って、人のところに連れて来られた。…
ー創世記　2:19ー
神である主は、その土地の土で、あらゆる野の獣とあらゆる空の鳥を形造って、人のところに連れて来られた人がそれを何と呼ぶかをご覧になるためであった。人がそれを呼ぶと、何であれ、それがその生き物の名となった。
ー創世記　1:20ー
人はすべての家畜、空の鳥、すべての野の獣に名をつけた。しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。
アダムは、自分にふさわしいものがないことを知っていました。それは彼にとっては明らかでした。疑問は一切ありませんでした。まぁ、疑問があったとすれば、アダムはこんな感じでしょう。
「神様、、えっと、、、一番近いものは、あそこのオランウータンなんですけど。でもあれは、毛むくじゃらで…。分からない！　そんなこと出来ないでしょう。」ー（笑）ー　ああ、なんということでしょう。でも、質問する前に眠らされてしまったのでしょう。考えてみてください。教える良い機会です。この園の記述の中に、いわば時間のずれを感じるのですが、これは完全に理にかなっています。しかし、今日話題のこのギャップ説とは無関係です。園ができたときから、アダムはエデンの東側に置かれ、園の管理を任され、一本の木を除いてすべての木の名前を自由につけ、獣、家畜、空の鳥の名前もつけました。これには少しばかり時間がかかったと考えるのが自然でしょう。ついて来れていますか？　創世記 2 章 8 節と 9 節をご覧ください。この園は主によって植えられたものであることに注目すべきです。この園は主によって植えられたものであることに注目すべきです。ここから、この地から、この園のすべての木が育

ちます。ここから、この地から、この園のすべての木が育ちます。私たちが想像力を膨らませ続ける必要があるのは、ここです。この園に植えた後、しばらく経ってからということも大いにあり得ます。この園と地球の霊的な監督者の確立と、この園のすべての木々の成長、そして、女が男のために造られたのは、ルシファーとその従者たちが神に反逆したであろう時であると。いのちの木と善悪の知識の木が、園の真ん中にあることで全く成長する必要がなかったとしても、関係ありません。必要性が見当たりません。繰り返しますが、サタンの堕落は、人間の罪の前に起こる必要がありましたが、必ずしも人間の創造の前からこの時点までに起こる必要はありません。そして、聖書のどこにも、アダムとエバがこの園に隔離されたとは書かれていません。実際、彼らは地を治めるように言われていました。ちなみに食べ物もすでに用意されていました。神は創世記 1 章 11 節でそうおっしゃいました。これは特別な園でした。だからこそ、神の園とも呼ばれています。この園は、私たちが知るような時間が経過し、天の平和の中でこのような悪の反逆が行われる機会を得るための時間的な空白が必要だったのかもしれません。創世記 2 章 9 節は、聖書の中で、「悪」という言葉が初めて出てくる箇所です。ここで「悪」という言葉がどう訳されているのかが興味深いです。ここでは、このような意味です。作りが悪い、価値が小さい、貧しい。これらはすべて、神が表されない性質です。だから、これらすべてを頭に入れておきましょう。地球創造の際に御使いたちが目撃したことを考えながら。神が「それは良かった」と言われた時。
繰り返しますが、すべて違いを見せるためになさったことだと私は信じています。神は、善である光を闇から分離し、天の軍勢を共に保たれ、そのため、御使いたちは善を知り、それ以外の誘惑を受けることがなかったという事実によって、悪という悪を知らされたのです。ルシファーとそれに従う者たちは、自分自身を誘惑しました。アダムの罪に関しては、そこが大きな違いです。しかし、悪に関しては、ルシファーと彼とともに堕落した者たちは、神に仕える霊としての地位を失い、人間に対する悪の誘惑となるのです。そのために、神の姿に似せて造られたものではないことも事実です。彼らは決して贖われません。自分自身で誘惑しました。起こったこのすべては、アダムとエバの見えないところ、知り得ないところで起こりました。聖書に基づくと、その部分は、彼らが特権を受けられなかった次元のものです。人間の堕落以来、私たちが特権を与えられていない他の次元が、彼らには与えられていたとしても。その御使いたちに、最初に割り当てられた任務の全容はわかっていません。何らかの考えはあり、推測はできますが、ただわかっていません。しかし、聖書はルシファーの罪状がどのようなものであったかを示してくれています。そして、ここでエゼキエル書に戻らなければなりません。J.D.牧師がこの 28 章を教えられるのを楽しみにしています。ルシファーの任務と姿を知るために、11 節から 15 節までを見ていきます。
さて、これから読むこの嘆きは、すでにツロの王子、つまり実際のツロ王自身に与えられていたものです。しかし、神は預言者エゼキエルにこの言葉を本当の王、つまり王の背後にいる力強い者、糸で操っている者に語らせられます。11 節をお読みします。
ーエゼキエル　28:11ー
次のような主のことばが私にあった。
ーエゼキエル　28:12ー
「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう言われる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。
完璧な、知恵と美しさ。13 節で何と言っているかお聞きください。
ーエゼキエル　28:13ー

あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、縞めのう、碧玉、サファイア、トルコ石、エメラルド。あなたのタンバリンと笛は金で作られ、これらはあなたが創造された日に整えられた。

神によってより名前が付けられたこれらすべての宝石を持っています。その様子を想像することができれば。光の担い手として、すべての石を輝かせ、照らすのです。宝石です。これらの石が私たちの為に名付けられたことでルシファーの強みと弱点、あるいは高慢のために短所となったものについて、多くの情報を与えてくれると信じます。最初からです。なぜでしょうか？　嘘の父としてその道を選んだからです。しかし、これらの宝石に取り組む前に、この宝石を獲得するために、こんにち、何が行われているのかを考えてみたいのです。考えてみてください。私たちはそれらのためにおもに採掘しなくてはいけません。そうですね？　どれだけの人手と機械が必要ですか？　その原石を分解し、磨き、研磨し、様々な加工を施し、検査しなければなりません。そうですね？　この陰で多くの人が命を落としています。「ブラッド・ダイヤモンド/血のダイヤモンド」と呼ばれています。ここでルシファーがそれらと一緒に造られました。第一に、神には全く時間がかかりません。神が仰ると、それで完了です。しかし、これはルシファーがいかに尊い存在であったかを物語っています。考えてください。でも、この石には他にも面白いことがあるんです。ここで言及されているすべての石が、イスラエルの部族のいずれかに関連する石を表していることに注目ください。さて、ルシファーにまつわる石は 9 つだけです。これも確認してください。9 という数字は、神の完璧さにも関連しています。神の完全性、 神による完成とでも言いましょうか。聖霊の実には 9 つの要素があり、9 つの聖霊の賜物があります。

1 日のうち第 9 時は、祈りの時間です。（使徒の働き　3:1）

第 7 の月の 9 日目の夕方は贖罪の日です。

また、9 は神の裁きを象徴しています。

そして、主が「完了した」と仰ったのは、 9 時でした。

すべてはルシファーがいかに尊い存在であったかを言い表し、強化するためです。これが天にいる神の一番の息子でした。これらの石を部族と照合すると、

ルベンには「赤めのう」シメオンには「トパーズ」ゼブルンには「ダイヤモンド」マナセには「緑柱石」エフライムには「縞めのう」ベニヤミンには「碧玉」イッサカルには「サファイア」レビには「トルコ石」ユダには「エメラルド」

すべてに金が使われていました。しかし、これを非常に興味深いのは、ラビやカバラ、フラビウス・ヨセフスによると、これらの石の背後にある意味です。さて、これらが聖書の教義であるとは言いませんが、ユダヤ人にまつわる伝統やその他のことに関して、いくつかのヒントを与えてくれます。これらの情報をもとに、「この石は何のためにあるのか」を考えてみました。今はルシファーに関連する最初の 9 つしか見ていません。

知恵を表す「赤めのう」完全な知識を表す「トパーズ」解釈の力を表す「赤めのう」舌（異言）を表す「エメラルド」識別力を表す「サファイア」信仰を表す「ダイヤモンド」癒しを表す「緑柱石」奇跡を表す「縞めのう」そして、預言を表す「碧玉」

ルシファーはこれらの石に囲まれていたということです。さて、これを踏まえて、今後起こること、具体的には「ヨハネの黙示録」に関連することを見てみましょう。これらの特徴はすべて、偽預言者であるサタンによって利用されることに注目してください。考えてみてください。嘘のしるし、不思議、宗教の

秩序。反キリスト。どれもこれを使うことになります。現在でも、その多くが悪に利用されています。そして、もっとすごいのは、ルシファーとは無縁の石です。私にとっては、ルシファーの性格に欠けているものが何であるかを物語っています。注目下さい。ここで欠けていたのは、愛と善を象徴する石、また燃える石です。そのことを頭に入れておいてください。そして、聖霊の力を表す石である「めのう」。最後に、理解、真実、バランスを表す石である「紫水晶」。そしてそれこそが、すべての人を常に謙虚な状態に保つ石でした。サタンの失脚は何でしたか？高ぶりです。さて、これは独断で決めることではありませんが、私は、この件に関連性があると思うので、取り上げて見てはどうかと思いました。では、エゼキエルに戻ります。14 節。お読みします。

ーエゼキエル　28:14ー

わたしは、油注がれた守護者ケルビムとしてあなたを任命した。あなたは神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。

まず、第一に、ヘブライ語で「油注がれた」というこの言葉は、聖書全体でここでしか使われていません。この「mim-šâh」という言葉は、聖書のどこにも出てきません。それは、「十分に伸ばす」という意味です。それは種類の完全さというように。ダカインじゃなくてね。（地元ネタです）―（笑）―

種類の完全さ。分かりますか？　これがルシファーの場合でした。ルシファーはケルビムの完全体でした。ルシファーは全面的に張り巡らされ、すべてを覆い、残りのすべてを任されていたのです。神の聖なる山の上のリーダー。火の石の間を行ったり来たりして歩いていました。その石を思い出してください。「ヒヤシンス石」です。それは、愛と善を象徴する石でした。とても詩的だと思います。つまり、思い浮かべてみてください。神がこう言っておられるようです。

「ルシファー、あなたは引き伸ばされたケルビム、神の聖なる山にいるすべての者の長であり、わたしの愛と善の中で、行ったり来たりしながら歩いています。その火の石は、わたしの愛と善意であり、あなたはその間を歩いています。あなたはそれを身をもって知っています。言い訳はできません。」

後は歴史の通りです。15 節で、確かに知ることができます。お読みします。

ーエゼキエル　28:15ー

あなたの行いは、あなたが創造された日から、あなたに不正が見出されるまでは、完全だった。

完全なものとして創造され、ルシファーの中に不正が見出されるまでは、すべてにおいて完全でした。ここで別の言葉を紹介します。ここで使われている「不正」非常に異なっています。まったく違います。ここでのヘブライ語では、悪さ、悪意、不正を意味します。私にとっては、それは大きな意味を持ちます。これはすべて、ルシファーにまつわることです。善が悪に満ちていくのを目の当たりにし、完全に理解し、悪意によって、他の人にも同じことをするように説得し、正義に反抗し、不義を貫き、それが最初の罪の行為につながりました。神への反抗は罪だからです。そして、なぜここでこの言葉を公平に指摘するかというと、聖書では、この言葉が使われるほぼ 9 割で、罪という意味だからです。しかし、ここでは、別の言葉を使っています。私にとっては、神が知っておられることの反対であることと、うまく調和しています。神は良いお方です。先ほども言ったように、私たちの善の唯一の源です。神の中に悪いものはありません。サタンは悪として造られたのではありません。自ら悪になったのです。私たちの神には悪意はあられません。主はあらゆる点で正しく、被造物の自由意志が最初からただ従順であったなら、主はその正義を証明される必要はなかったでしょう。

さて、エデンの園に戻りましょう。エデンという名前は、喜びの場所という意味です。「喜びの園」とい

う名称を冠しています。神がエデンに植えられた園は、エデンの東側に植えられました。それが見逃されることがあります。私たちはエデンはそれだけだと思っています。違います、エデンの東側に、神の園が植えられました。その根拠は創世記 3 章 2 節に記されています。園には、実をつけるさまざまな種類の木が植えられていたことが分かっています。そこが神の園であることで、この特別な園には特別な実があると考えることができます。そうですね？　それは安全な前提だと思います。特にこんにちの味をはるかに超える甘さと美味しさだったはずです。ほとんどは何を食べているのかさえ分かりません。リンゴをいくつか見ましたが、それはリンゴですか？　遺伝子組み換え。ええ。しかし、これは喜びの園でした。今度は、ゲッセマネの園と対比して比べてみましょう。「油を搾る」という意味です。この園は、エルサレムの東側にありました。オリーブ山の近くの、神の聖なる山です。そして、この園で実った主な実は、苦いオリーブでした。ここはイスカリオテのユダがイエスを裏切った場所でもあります。喜びの園で神を裏切った者もいれば、ゲッセマネの園で神を裏切った者もいます。ここでの教訓は、これが人間の可能性で、甘さと喜びに満ちていようが、苦味で押し潰されていようが関係ありません。その間のすべてにおいて、私たちの心が神と正しいものでなければ、神を裏切る傾向があります。では、エデンに戻ります。もうすぐで終わります。この名称、「喜びの園」は、完全に贅沢な状態で生活することも意味します。完全に。聖書に基づけば、このような喜びはアダムとエバに与えられただけでなく、ルシファーにも表現されていたことになります。ルシファーはエデン、神の園にいたことを思い出してください。霊的なエデン、とも言えますね。これは重要なことです。ルシファーが人間に嫉妬していたという考えを取り除くからです。私は、この質問でそれを実証します。ルシファーは、神の最も偉大な創造物と同じ贅沢な状態を与えられて、何を嫉妬しなければならないのでしょうか？　ついて来ていますか？　むしろ、他のすべての御使いたちが、まずルシファーの立場に反抗的な反応を示すなら、それはもっと理解しやすいでしょう。そうですね？　そんな上司を誰が愛するでしょう。そうでしょ？　普段、オフィスで
「ああ、私は CEO に耐えられない」と言う人はいません。違います、上司を見ています。直属の上司を。しかし、聖書を見る限り、彼らは皆、自分自身が最高の贅沢をできなくても、ルシファーの考え方に賛同しているように見えるでしょう。それは大きな意味を持ちます。なぜなら、私にとっては、堕落する御使いたちはすべて、ルシファーとまったく同じ理由であることを示すからです。彼らは皆、自分が神のようになれると信じています。彼らは、基本的に
「ルシファーができるのなら、私たちにもできる」と、彼の立場を軽く見ています。
質問は、もしルシファーが与えられたこの贅沢な状態に満足していないとしたら、なぜ他の御使いは
自分もそうだと思うのでしょうか？　全員、自分を騙しています。なぜなら、結局はやはり、皆、神のようになりたかったからです。サタンがエバに「神のようになる」と言ったときにも、同じような考え方が見られました。これは現代でも同じことです。力強さと支配が人間の原動力となり続け、それがその人の転落につながります。どうしようもありません。さて、これは時間がなくて全てに踏み込めなかったというわけではありませんが、自分で興味を持って見てもらえるように願っています。しかし、そうは言っても、私はこのギャップ説と呼ばれるものは必要ないと考えています。アダム以前の人類型種族のようなものは必要ありません。サタンの堕落は、人間が創造される前に起こる必要はありませんでした。結局は、そのことを秘めることが神の栄光なのです。私たちは、すべてにおいてただ神を信頼すべきです。では、お立ちください。カポノ、上がって来て下さい。今夜はこれで終わります。あなたが祝福されたことを祈ります。

天のお父さま、主よ、ただあなたの御言葉に感謝します。あなたが表しておられるもの、私たちが想像もつかないあなたの偉大さに。私たちは努力しますが、その偉大さを、他の人にも分かるように表現できるよう、より多くの知恵と理解を与えてくださるようお願いします。
主よ、あなたの愛とあなたの優しさに目を向けさせてください。私たちはあなたをとても愛しており、今夜のこの教えに感謝します。それぞれが別の道を歩むとき、あなたが皆と共にいてくださるように、あなたの御名のもと、賛美と祈りの礼拝堂に再び戻れるよう祈ります。私たちはあなたを愛し、あなたに感謝します。イエシュア、イエス・キリストの偉大な御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7